

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
 〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

1993年

中国青海省高校生交流会

「友好の使者」帰国報告

小林 裕 貴

一行13人が上海から中国入りして、青海南山を登頂した21日間のようすを、報告を兼ねて紹介します。

〈事前活動〉

6月に計画の趣旨説明、計画にいたるまでの青海省登山協会との経過、事前にベースキャンプ予定地に向いたうでの山域の概要説明などの内容で、参加を希望する生徒や保護者の人を対象にミーティングを持ちました。

7月には参加者(生徒8人および教員5人)による最終打ち合わせを兼ねた研修合宿を長岡工業高校セミナーハウスを会場に行いました。また、この日に県山協の方々よりの壮行会もあり、数々の激励をいただきました。

〈行動概要〉

多くの人に見送っていただきな長岡駅を出発して、飛行機、バスを乗り継いで5日目の深夜に青海省の省都である西寧に到着しました。

青海省登山協会事務所訪問においては呉秘書長をはじめ多くのスタッフや第18中学校の生徒5人の歓迎を受けました。早速、歓迎の晩餐をしていただき、これから始まる登山の成功と安全を全員で祈念しました。

青藏公路をバスで移動して、青海湖が一望できる場所にベースキャンプ(標高3500メートル)を設置しました。中国側スタッフによる料理でエネルギーを充電しましたが、雨天による停滞で予定より一日遅れでアタックキャンプ(標高3900メートル)の設置になりました。このこと



青海南山4472m 登頂記念

は結果的に、高度順化には効果があったとの評価がされまです。サブザックの中にはミネルウォーターのボトルと

中国遠征参加者
 青海南山 (4472 m)
 13名全員登頂

藤井	信	新潟県山岳協会副会長
中村	孝	長岡大手高校教員
佐藤	國	長岡工業高専教員
小林	裕	巻工業高校教員
小	林	柏崎工業高校教員
小	林	長岡工業高専5年
岡	本	長岡工業高校2年
村	田	柏崎工業高校3年
星	野	柏崎工業高校2年
保	坂	柏崎工業高校2年
郷		柏崎工業高校2年
土	岐	柏崎工業高校2年
猪	保	柏崎工業高校1年
小	川	柏崎工業高校1年

現地支給のランチセットが入っています。メインザックはヤクの背に乗せて運搬してもらったことができました。

8月5日、雨があがるのを待って午前11時25分ACを出発、午後2時35分に日中高校生登山隊の全員が青海南山(標高4472メートル)に登頂成功しました。行動中のほとんどがガスの中だったにもかかわらず、頂上では晴れてきて、周囲の山々と眼下の青海湖を眺めることができました。のは幸運だったと思います。

下山後、上新庄新荘キャンプ場でのキャンプファイヤ

1は、登山が終わったので安堵感とお互いの気持ちがあがったことが手伝って、ずいぶん盛りあがったものです。

第18中学校での交歓会や登山成功を祝しての答礼の会もありました。18中学校の生徒の踊りや歌に感心したり感激したり、また高校生同士の交流も活発に行われました。

その後西安や上海の遺跡や街を見せられてもらうこともできて、これには登山活動とは一味違った感動があったことはいまでもありません。

無事に活動を終えることができた今、当初の三つの目的

を達成できた喜びと感激が日を増すごとに高まる思いです。これもひとえに全般にわたり活動を支えてくださった会の皆さん、全面的にサポートしていただいた青海省登山協会のスタッフ、心配が多かったと思う保護者の方々など大勢の人の協力があったからこそと考えます。成功に導いてくださったすべての人達に紙面を借りて感謝の意を表したいと思います。

どうもありがとうございました。

中 高 年 登 山

6月19日、20日

中 高 年 登 山 委 員 会

委 員 長 坂 井 厚

今年で3回目、苗場山で1泊2日で実施した。

計画では、高山植物を目玉に小赤沢路上り、大赤沢路下りであったが、下見登山の結果、半月程の遅い雪消えで大赤沢路下りカット、登頂も無理しない、その充分な教室内容をとりリーダー打合せにした。

92名募集に対して入金申込が大幅に上回り、マイクロバス1台20名増となった。

6月19日、マイクロバス5台、梅雨中、新潟から高速度利用、長岡IC、川口ICで更に参加者を得、栄村の苗場山、鳥甲山山開きと写真展で変更した会場大赤沢小学校15時30分着。開構式、続いて座学に入る。

福原栄村遭難救助隊長の話は、具体的であったが長くならず、その分、後の加藤講師の観天望気が短くなって残念。この間、バス運転士2名をして林道運転適否に車を馳る。

座学終って再びバスで栄村小赤沢の秋山館他3軒に分宿した。暫時の刻を得て地図の見方等座学を設ける班も見受けられた。

6月20日、夜半に2回程の強雨あり、その都度暗の雨空を見上げて案ずる役員も居たが、朝には小降りになった。迂回の上ノ原経由で林道終点着。軽いストレッチ体操後各班毎出発。登るに従い今出たばかりの地肌から、処々に残雪を見るようになる。台地への残雪ある急坂も難なく済みそうだが、77才の高令の方には、いささかきつそうで最後支援が役立った。

苗場はまだ残雪豊富、霧雨、ガスで路迷いもあったが僅かで復し、山頂では幸運にも僅かに青空も覗かせ、時ならぬ大勢の賑わいも束の間の出来事でした。

下りで山に慣れぬ人達のきこちなさが、殊に急坂の雪上ではそれが目立ち、4〜5M程の滑落もあるが大事に至らず(尻餅が多い)、裾回りが泥に汚れて林道終点着。直ちに閉講式では、77才男性の状況を引例(持病なし、平地歩行トレーニング有、山の経験少。上り山頂台地直下で目眩み、脈膊甚しを生ず)して安全登山、生涯スポーツへと話し、平田理事長から帰宅まで心を許してはなりません、と



結び終了とした。
新潟帰着は19時すぎから20時すぎまでであった。
今後の課題として、①地域山岳会への加入態勢、②受講者のリーダーシップ養成、③医師、看護婦の早期確保、等々。またリーダーら役員には、経費の面でも更に負担を大きくしているが、なるべく協力できる山岳会を拡げることによってゆきたいところです。

高令化に向う中で、生涯スポーツとして、何時でも何処でも誰でもが、スポーツをの権利がますます要求されるところに向っている昨今です。
地元の津南山岳会始め、役員を受持ち協力いただいた各山岳会及び煩雑な事務、車等工面を労した加藤、中村両委員に厚く感謝するところです。また、今後多くの山岳会から暖かい協力をお願いします。

年令平均、男57・0才、女52・9才、全54・8才。最高令、男77才、女68才（何れも役員を除く。役員高令76才班リーダー）性別比、男48・2%、女51・8%。
参考（役員除く）
91年、男36・6%、女63・4%、年令不明、平標山 10%、山岳会、関川村山の会、峡谷山岳会。
越後ハイキングクラブ、ゆきみ山の会、越後山岳会、下越山岳会、関川村山の会、峡谷山岳会。

宿泊に対応できます。立地条件もよく、北側の二階窓から見下ろす村松町、五泉市、新津市の夜景は筆舌に尽し難いものがあります。また、南側の窓からは、粟ヶ岳のおやかな峰々を望むことができ、ゆったりと時間が過ぎていくようで、つい、つい一杯いこうか！とお酒に手が伸びてしまいます。
避難小屋には除雪用のスコップを始め、床を汚さないよう配慮した炊事用のトレー、宿泊用のウレタンマット8枚などが運んであります。但し、水場がありませんので飲料水は持参して下さい。
「白山避難小屋」が建った日から、当会で管理をしていくわけですが、登山する方がいつも快適に使用できるようにご協力をお願いいたします。尚、竣工祝の時の集合記念写真を焼き増ししました。届かない方はご一報下さい。無料です。送付申し上げます。
（矢筈山岳会事務局 松尾 弘）

村松町「白山避難小屋」完成 山頂で竣工祝い挙行！

所要時間

計画上下5
時間に対して、
上り先頭3時間15分、最後5時間30分、
下り先頭3時間15分、最後4時間10分、
標高差約860M。
一般参加、
男53名、女57名、計110名（内ペア17名）
役員27名、当日支援6名、計143名。

山の木々の葉も色付きはじめた9月20日に、待望だった「白山避難小屋」が竣工し、9月26日（日）に竣工祝いを挙行いたしました。
当日は一時頂上ガス程度で、まずまずの天気にも恵まれ、県山岳協会からは小林副会長殿、山田婦人部長殿を始め、県内各山岳会及び一般登山者、約80名の方々から、お神酒で祝って頂きました。お協力をお願いした皆様方に、厚く御礼を申し上げます。
さて、平成元年に白山ノ宝蔵山の縦走路の登山道整備と、

「白山避難小屋」の建設を町当局に陳情するため、県内各山岳会を始め、大勢の山仲間の方々からご署名を頂いたわけですが、念願が叶い、お陰様で白山ノ宝蔵山の縦走路は、平成3年度に約2・3kmが開通し、加茂市の粟ヶ岳への縦走コースが繋がった事になります。（現在、加茂山岳会で権ノ神山ノ宝蔵山の登山道を整備されているそうです。）
完成した避難小屋は、白山（標高1012m）の頂上直下に建てられ、木造二階建、床面積がおよそ20坪で60名の



「白山避難小屋」竣工祝

わがクラブ ②

新潟工業高校山岳部

我が新潟工業山岳部は、とても伝統のあるクラブです。以前は数多くの大会で実績を残し、その時の賞状が今でも部室の隅に埋もれています。しかし、この近年、低迷して、部員を確保することすらままならない状態です。現在は少人数ですが、その分連帯感や、団結力が強く、ともうまくまとまっています。

私達の日頃の練習メニューは、ランニングから始まり、その後ストレッチなどを終え、天気図を書いて1日の練習を終えます。最近は補習や実習に忙しいため、参加率が低く、登山でバテたり、天気図をうまく書けないということがよくみられます。

次に我が部の年間の予定ですが、年4回ある大会に出場すること、春山合宿が1回、夏山合宿が2回、その他にも月例登山や、全校生徒から参加者を募る全校有志登山などがあります。最近では、岩ト

レーシングや、スキーなどでも、私の山岳部に入って、最初の登山で、いきなり挫折感を味わいました。中学生のころ野球部で培った体力に少々自信がありました。しかし、登山は、なんでもなにかに苦しいのだろう。どうしてこんなことまでして、山に登るのだろうかと考えたこともありました。しかし今もなお、いろいろな山を登り続けています。山は何か引きつける力を持っています。私達は自然が相手なので、時には雨だったり、大風だったり、暑かったり、寒かったりとさまざまです。しかし、きつい山ほど、印象に残るものです。私は登山を始めて、自然のすばらしさ、スケールの大きさを知ったと同時に、いまま

で、他の部活では味わえない経験をたつむことが出来ました。これからもずっと登山を続け、より多くの山々に挑戦したいと思います。
(電気科3年 富山淳一)

編集室

ニュースを毎月送ってほしいとの声を聞く。協会のコミュニケーションの場として紙面を使っていたことは、編集者としては感激である。毎号四百部印刷して事務局が発送しているのだが、予算都合で、加盟団体、高校山岳部、協会役員、等に発送して残部が無くなる。

団体によっては「コピーして会員全員に配布している」と連絡いただいた。一人でも多くの人にニュースを読んでもらい、協会の仕事内容を理解していただけることは有り難いことである。

係としては読んでもらえる紙面を目指しておりますが、記事が無い事には毎月発行とは行きません。会員の投稿をお待ちしています。なお毎月5日〆切、20日発行を目標に頑張ります。